

ネギ、ワケギ、アサツキ\*1(野菜類、鱗茎類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	ネ	ワ	ア	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	疫	ベ	苗	葉	萎	黄	黒	さ	白	灰	小	小	ボ	黒	黒	軟	オ
	ギ	ケ	サ						病	病	立	凋	斑	斑	び	絹	色	菌	菌	ト	腐	腐	核	核	チ
イオウFL	☆	☆	☆	M2		*L	-										◎								
スターナ水	☆			31		7	3																		◎
トップジンM水㊦	☆			1		7	3					◎							◎	◎		◎			
トップジンM粉DL㊦	☆			1		*a	1					◎							◎			◎			
ペンレート水㊧	☆			1		30	1												◎						
	☆					*a	1					◎							◎						
		☆				*i	1					◎													
ハチハチ乳	☆			39	劇	7	2			◎															
アフエットFL	☆			7		*k	2																		◎
						1	2					◎			◎	◎	◎		◎	◎					
カナメFL	☆			7	劇	1	4					◎			◎	◎	◎								◎
ケンジャFL	☆			7		14	2																		◎
パレード20FL	☆			7		*h	1	苗																	◎
						*a	1	*o																	◎
						1	3					◎			◎	◎	◎		◎	◎					◎
モンカットFL40	☆			7		*b	4											◎							◎
	☆					30	4																		◎
モンカット粒	☆			7		*b	4												◎						◎
	☆					*p	4																		◎
ミリオネアFL	☆			7	劇	1	4					◎			◎	◎	◎								◎
	☆					3	4			◎		◎			◎	◎	◎								
アミスター20FL			☆	11		7	4			◎					◎	◎	◎								
						7	4			◎					◎	◎	◎								
ストロビーFL	☆			11		7	3								◎	◎									
	☆					21	2												◎						
ファンタジスタ顆水	☆			11		1	3					◎			◎	◎	◎		◎	◎					◎
	☆					21	2																		株
メジャーFL	☆			11		1	3			◎		◎			◎	◎	◎		◎	◎					◎
ユニフォーム粒	☆			11・4		*m	1			◎					◎	◎									◎
ランマンFL	☆			21		3	4			◎															
		☆				3	3			◎															
フロンサイド粉	☆			29		*c	2											◎		◎					
フルピカFL	☆			9		7	4																		◎

ネギ・ワケギ・アサツキ



ネギ、ワケギ、アサツキ\*1(野菜類、鱗茎類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	ネ	ワ	ア	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	疫 病	べ と 枯	苗 立 枯	葉 凋 病	萎 斑 病	黄 斑 病	黒 斑 病	さ び 病	白 絹 病	灰 色 か び 病	小 菌 核 腐 敗 病	小 菌 核 病	ボ ト リ チ ス 葉 枯 症	黒 腐 病	黒 穂 病	軟 腐 病	オ シ ロ カ ラ カ サ タ ケ	
ベルコート水	☆			M7		30	3				◎				◎	◎										
ユニフォーム粒	☆			4・11		*m	1		◎													◎				
リドミルゴールドM Z顆水	☆			4・M3		14	3		◎																	
フォリオゴールドFL	☆			4・M5		14	3		◎																	
		☆				14	2		◎																	
カセット水	☆			31・24		14	2																		◎	
ナレート水	☆			31・M1		14	3		◎																◎	
シグナムWDG	☆			7・11		7	3		◎						◎	◎										
ベジセイバーFL	☆			7・M5		14	2		◎	◎				◎	◎	◎				◎						
アミスターオブティ FL	☆			11・M5		14	3		◎	◎			◎	◎	◎					◎						
ダイナモ顆水	☆			21・27		3	4		◎																	
ドーシャスFL	☆			21・M5		14	3		◎						◎											
ザンプロDMFL	☆			45・40		14	3		◎																	
カスミンポルドー水	☆			24・M1		14	2																		◎	
テーク水	☆			3・M3		14	3		◎		◎				◎	◎										
ベトファイター顆水	☆			40・27		14	3		◎																	
フェスティバルC水	☆			40・M1		14	3		◎																	
カンパネラ水										◎																
ベネセット水	☆			40・M3		14	3								◎											
カーニバル水	☆			40・M5		14	3		◎						◎	◎										
プロボーズ顆水	☆			40・M5		14	3		◎		◎															

◎:ファナート剤含有剤 ○:ベル含有剤 ⊕を使用した場合には同じ作での◎は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く)。\*1:ネギ、ワケギ、アサツキは使用できる農薬が異なる。☆印で区別した。

\*a:定植直前 \*b:土寄せ時(但し収穫30日前まで) \*c:土寄せ時(但し収穫21日前まで)

\*d:出芽揃い後(出芽3日後～10日後まで) \*e:土寄せ時(但し収穫14日前まで)

\*f:土寄せ前(但し収穫14日前まで) \*g:生育期(但し収穫35日前まで) \*h:育苗期後半～定植当日

\*i:植付前 \*j:は種時 \*k:生育期(但し収穫14日前まで) \*l:発病前～発病初期

\*m:土寄せ時(但し収穫45日前まで) \*n:定植前 \*o:5～10分間苗根部浸漬 \*p:は種前

Ⓜ:リゾクトニア菌による病害

苗:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用法は、土耕栽培による苗には使用できない。

土:土壌表面散布 株:株元灌注

ネギ、ワケギ、アサツキ\*1 (野菜類、鱗茎類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	ネ	ワ	ア	作用機 構分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア	ハ	ク	タ	シ	ネ	ネ	ネ	そ の 他 害 虫
	ギ	ケ	サ						ブ	モ	ロ	マ	シ	ネ	コ	ガ	
スピノエース顆水	☆	☆	☆	5		3	3		◎				◎				
スラゴ	*2	*2	*2	UN		*L	-										ナ
カルホス粉	☆	☆	☆	1B		*d	2									◎	
カルホス微粒F	☆	☆		1B	劇	*f	1									◎	
		☆	☆			*d	2									◎	
サイアノックス乳	☆			1B		21	2		◎								
ショットガン乳	☆	☆		1B	劇	21	2		ギ								
			☆			30	2		ギ								
ダイアジノン乳40	☆	☆		1B	劇	21	2		◎	ネ			◎		◎		
			☆			30	2		◎	ネ			◎		◎		
ダイアジノン粒5	☆	☆	☆	1B		*d	2										◎
ダイアジノン粒10	☆	☆	☆	1B	劇	*f	1					◎					
トクチオン乳	☆			1B		7	3		◎	ネ	株			◎	◎		株
ネキリエースK粒	☆			1B		30	2										◎
マラソン乳	☆	☆		1B		7	6		◎	◎	ハ						
						7	5		◎	◎	ネ			◎	◎		
アグロスリン乳	☆			3A	劇	3	2		◎	◎	ネ			◎	◎		
		☆				7	3		◎		ネ			◎	◎		
アディオン乳	☆			3A		7	3	灌						◎			◎
テルスター水	☆			3A		7	2						◎				
トレボン乳	☆			3A		21	2						◎				
フォース粒	☆			3A	劇	*a	1									◎	◎
	☆					30	1										◎
アクタラ顆溶	☆	☆		4A		3	3		ギ	ネ							
アクタラ粒5	☆	☆	☆	4A		*a	1		ギ	ネ							
		☆				*f	1		ギ								
アドマイヤーFL	☆			4A	劇	*g	1	苗	◎	ネ							ク
		☆	☆			14	2		◎								
アドマイヤー1粒	☆	☆	☆	4A		3	2		◎								
		☆	☆			3	2		◎								
アルバリン顆溶	☆	☆		4A		*g	1	苗	◎	◎		◎	◎	◎			
スタークル顆溶	☆					*j	1	灌	◎	◎							ト
		☆				*j	1	灌	◎	◎							
	☆					*f	1		◎	◎							
アルバリン粒	☆			4A		*a	2		◎	◎							
スタークル粒		☆				*p	2		◎	◎							ク
			☆			*c	1		◎	◎							
	☆			4A		*a	1		ギ	ネ		◎					
ダントツ粒	☆					*f	1		ギ	ネ							
	☆	☆	☆			3	4		ギ	ネ							◎

ネギ・ワケギ・アサツキ





## ネギ、ワケギ、アサツキ\*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 害	春まき	—										
	さび病			—	—	—	—	—	—	—	—	
	黒斑病					—	—	—	—	—	—	
	秋まき								—	—	—	
虫 害	アブラムシ類			—	—	—	—	—	—	—	—	
	ネギハモグリバエ					—	—	—	—	—	—	
	ネギアザミウマ					—	—	—	—	—	—	

作 型 — ; 栽培期 — ; 収穫期  
 病害虫発生長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	生育期	1. 雨よけ栽培を行う。 2. 発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル● 2000倍 アリエッティ水和剤★ 800倍 ジマンダイセン水和剤☆ 600倍 ダコニール1000 (FL) ★ 1000倍 リドミルゴールド MZ (顆水) ☆ 1000倍 3. 全身感染している株は、早期に抜きとって処分する。	秋及び春の2回発生するが、特に4～5月に降雨日が多いと発生しやすい。 ネギのほかタマネギ、ワケギ、ノビルなどに発生するが、ラッキョウ、ニラ、アサツキなどにはほとんど発生しない。
	収穫後	・ 枯死葉などの伝染源を畑に残さない。	● 耐性菌を生じやすいので連用しない。
黒斑病	生育期	1. 肥料切れすると発生しやすいので、肥培管理に注意する。 2. 発病を認めたら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ストロビーフロアブル☆ 2000倍 ダコニール1000 (FL) ★ 1000倍 ポリオキシシンAL水和剤☆ 1000倍 ロブラール水和剤 1000～1500倍	5～11月かけて発生するが、特に梅雨期および秋季に高温で降雨の多い年に多発する。
	収穫後	・ 枯死葉などの伝染源を畑に残さない。	

\*1:ネギ、ワケギ、アサツキは使用できる農薬が異なる。

無印:ネギ、ワケギ、アサツキいずれにも登録あり

★:ネギとワケギに登録あり

☆:ネギのみに登録あり

注意…ネギ、ワケギ、アサツキに共通して登録がある農薬でも、作物ごとに使用時期などが異なる場合があるので、各作物における使用基準をよく確認する。

## ネギ、ワケギ、アサツキ\*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
さび病	定植前	1. 肥料切れをしないよう肥培管理に注意する。 2. 雨よけ栽培を行う。	ネギのほかタマネギ、ニンニク、ニラ、ラッキョウ、アサツキなどに発生する。5～6月と9～10月に降雨が多いと発生しやすい。薬剤散布の際は展着剤を加用する。 #1QoI剤に深達性展着剤を使用すると葉害を生じる場合がある(展着剤の項参照)。 ●DMI剤は耐性菌を生じる恐れがあるので連用しない。 #2ネギとワケギ、アサツキで使用日数が異なるので注意する。
	定植後	・発生を認めたら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル#1、#2 2000倍 ストロビーフロアブル☆#1 2000倍 テーク水和剤☆● 600倍 オンリーワンフロアブル● 1000倍 ラリー水和剤●#2 2000倍	
黒腐菌核病	播種前	・強酸性の畑は消石灰を10a当り120kg施用する。	ネギのほかタマネギ、ニンニク、ラッキョウ、ニラなどに発生する。11～12月および3～4月頃に発生する。 低温、多湿時に発病が助長される。
	定植時	・発病床の苗は定植しない。	
	生育期	・発病株は早期に処分する。	
小菌核腐敗病	定植時	・定植直前に次の薬剤のいずれかに30分間根部浸漬をする。 トップジンM水和剤☆#1 200倍 ベンレート水和剤☆#2 500倍	#1チェーンポットで育苗している場合は、1冊(30×60cm、使用土壌約5L)あたり250倍液を0.5～1L苗床灌注する。 #2セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している場合は、1箱又は1冊(30×60cm、使用土壌約5L)あたり500mL灌注する。
	生育期	1. 発生を認めたら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 フルビカフロアブル☆ 2000倍 ベンレート水和剤☆ 1000～2000倍 ロブラール水和剤 1000～1500倍 2. 発病株は早期に処分する。	
ボトリチス葉枯症	生育期	・発生を認めたら次の薬剤を散布する。 ロブラール水和剤● 1000～1500倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。

\*1:ネギ、ワケギ、アサツキは使用できる農薬が異なる。

無印:ネギ、ワケギ、アサツキいずれにも登録あり

★:ネギとワケギに登録あり

☆:ネギのみに登録あり

注意…ネギ、ワケギ、アサツキに共通して登録がある農薬でも、作物ごとに使用時期などが異なる場合があるので、各作物における使用基準をよく確認する。

## ネギ、ワケギ、アサツキ<sup>\*1</sup>(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
萎縮病	播種前	・ネギ畑の近くに苗床を設けない。	ネギのほかタマネギ、ニラ、ラッキョウ、スイセンなどに発生し、アブラムシ類によって媒介される。石倉ネギ、晩ネギなどは耐病性が高い。
	苗床期～生育期	1. 苗床中の被害株は見つけ次第すみやかに抜きとる。 2. 無病苗を選別し定植する。 3. アブラムシ類の項を参考に防除する。	
アブラムシ類	苗床期	1. 寒冷紗による被覆育苗を行う(春まきネギでは発芽揃～6月上旬、秋まきネギでは発芽揃～12月中旬)。 2. シルバーテープを設置し、アブラムシ有翅虫の飛来を防ぐ。 3. 苗床に次の薬剤のいずれかを散布する。 ダイアジノン乳剤40 1000倍 マラソン乳剤☆ 1000～3000倍	4～6月および9～11月に高温乾燥が続くとアブラムシ類が多くなり、多発する。
	生育期	1. シルバーテープを設置し、アブラムシ有翅虫の飛来を防ぐ。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤★ 2000倍 ダイアジノン乳剤40 1000倍 マラソン乳剤☆ 1000～3000倍	
ネギアザミウマ	定植時	1. 施設では近紫外線除去フィルムを展張し、開口部には目合い0.6mm以下の防虫ネットを張る。 2. 次の薬剤のいずれかを植溝に施用し、土壌混和する。 ベストガード粒剤☆ 6kg/10a モスピラン粒剤 6kg/10a	夏期が高温乾燥の時に多発する。(問題になっている病害虫の生態と防除-ネギアザミウマの項参照)
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤★# 2000倍 アディオソ乳剤☆# 2000～3000倍 アルバリン顆粒水溶剤★# 2000倍 スタークル顆粒水溶剤★# 2000倍 スピノエース顆粒水和剤# 2500～5000倍 ダイアジノン乳剤40# 700～1200倍 ダントツ水溶剤 2000～4000倍 ディアナSC☆# 2500～5000倍 モスピラン顆粒水溶剤# 2000倍	

\*1:ネギ、ワケギ、アサツキは使用できる農薬が異なる。

無印:ネギ、ワケギ、アサツキいずれにも登録あり

★:ネギとワケギに登録あり

☆:ネギのみに登録あり

注意…ネギ、ワケギ、アサツキに共通して登録がある農薬でも、作物ごとに使用時期などが異なる場合があるので、各作物における使用基準をよく確認する。

## ネギ、ワケギ、アサツキ\*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ネギハモグリバエ	播種または定植時 生育期	<p>・次の薬剤を施用する。 モスピラン粒剤#1 6kg/10a</p> <p>1. 施設では近紫外線除去フィルムを展張し、開口部には目合い0.6mm以下の防虫ネットを張る。</p> <p>2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アフアーム乳剤☆#2 1000倍 アルバリン粒剤☆#2 (株元散布) 6~9kg/10a スタークル粒剤☆#2 (株元散布) 6~9kg/10a ダイアジノン乳剤40 1000~2000倍 ダントツ水溶剤 2000~4000倍 ディアナSC☆ 2500~5000倍 プレバソンフロアブル5☆#2 2000倍</p>	<p>#1モスピラン粒剤は、播種時は播溝、植付時には植溝に施用し土壌混和する。</p> <p>#2ハモグリバエ類での登録</p>
シロイチモジヨトウ	生育期	<p>・8月下旬頃から発生に注意し、幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤★ 1000倍 アフアーム乳剤 1000~2000倍 カスケード乳剤☆ 4000倍 トレボン乳剤☆ 1000倍 ノーモルト乳剤☆ 2000倍 フェニックス顆粒水和剤☆ 2000~4000倍 プレバソンフロアブル5☆ 2000倍 フローバックDF#3 1000倍</p>	#3野菜類での登録
ハスモンヨトウ	成虫発生初期~発生終期	<p>・フェロディンSLを、トラップに1ha当たり2~4個取り付けて設置する。</p>	
ネギコガ	生育期	<p>・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤★ 2000倍 アニキ乳剤☆ 1000~2000倍 ダイアジノン乳剤401000 1000倍 プレバソンフロアブル5☆ 2000倍</p>	
ネキリムシ類	播種または植付時	<p>・次の薬剤を土壌表面散布または土壌混和処理する。 カルホス粉剤 6kg/10a</p>	
その他の病害虫		白色疫病	

\*1:ネギ、ワケギ、アサツキは使用できる農薬が異なる。

無印:ネギ、ワケギ、アサツキいずれにも登録あり

★:ネギとワケギに登録あり

☆:ネギのみに登録あり

注意…ネギ、ワケギ、アサツキに共通して登録がある農薬でも、作物ごとに使用時期などが異なる場合があるので、各作物における使用基準をよく確認する。